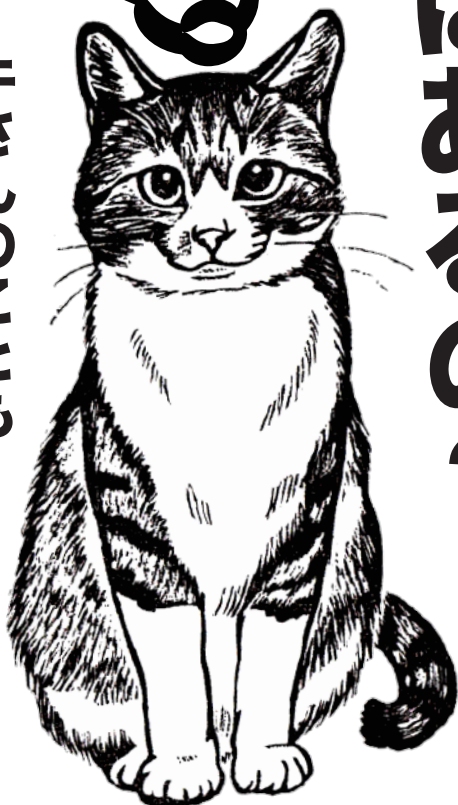


どなたでも参加できます



ぼくたちが入れる
避難所はあるの？

牛さんのことも
忘れないでね...



災

第5回 防災市民シンポジウム
その時問われる動物との絆
-見えない課題が見えてくる- きずな

害

2017年 11月23日(祝・木) 13:00-16:30(受付12:30-)

信州大学 工学部 SASTec (信州科学技術総合振興センター) 3階

主 催：信州大学地域防災減災センター

後 援：京都産業大学鳥インフルエンザ研究センター、長野県、一般社団法人長野県獣医師会、信濃毎日新聞社、日本経済新聞社長野支局、長野日報社、朝日新聞長野総局、新建新聞社、SBC信越放送、NHK長野放送局、信州大学農学部、伊那谷アグリイノベーション推進機構、ながの災害・防災ネットワークみらい

開催概要

災害はそれまで当たり前であった生活を一変させます。自宅が倒壊・浸水したりすれば避難所等への移動を余儀なくされ、災害の規模によっては避難先での暮らしが長期化する可能性もあります。その時一緒に暮らす動物の存在はどのような課題や影響をもたらすでしょうか。そこで本シンポジウムは、災害時の動物について広く考えるきっかけの場として開催します。

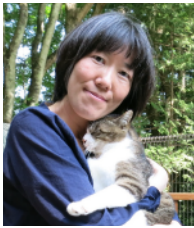
さて、人間と暮らす動物といっても犬や猫だけではありません。“生業の糧”として育てられている牛や豚等の産業動物もいます。皆さんの家族であるコンパニオンアニマルと日々の生活に欠かすことのできない産業動物は、両方とも野生動物とは異なり災害が発生してもその場から自由に移動することもままなりません。たとえ逃げ出したとしても野生で生活することは困難です。そこで上記をふまえて災害時の動物とのかかわりを、コンパニオンアニマルについては打越綾子先生に、産業動物については竹田謙一先生にお話しいただきます。さらに災害発生後は人と動物の間には様々な課題が出てきます。そのなかでも特に動物を介した感染症の問題があげられます。鳥インフルエンザを中心に広く感染症について研究を行う大槻公一先生にお話しいただきます。

日頃、防災について「あまり考えていない」「対策をとっていない」という方は、この機会にぜひ家族の一員である動物を通じて、防災について考えるきっかけにさせていただけると幸いです。



信州大学地域防災減災センター長
菊池 聡 (きくち さとる)

パネリスト



打越 綾子 (うちこし あやこ)

成城大学法学部教授。1971年東京生まれ、1994年東京大学法学部卒、同大学院にて博士号取得、2002年より成城大学で行政学、地方自治論の教鞭を執る。2007年より長野県軽井沢町に定住、各種地域活動に参加。他方、保護猫5匹を飼育しながら、愛玩動物、野生動物、動物園動物、実験動物、畜産動物など動物に関わる政策を研究。環境省中央環境審議会動物愛護部会等の委員を歴任。地方政治行政に関わる主著として『自治体における企画と調整』（日本評論社）、動物政策に関わる主著として『日本の動物政策』（ナカニシヤ出版）。



大槻 公一 (おおつき こういち)

京都産業大学鳥インフルエンザ研究センター長／鳥取大学特任教授。1942年4月14日生まれ。静岡県旧清水市出身。北海道大学獣医学部獣医学科卒業後、北海道大学大学院獣医学研究科修了。獣医学博士（北海道大学）。1971年鳥取大学農学部講師として着任。微生物学及び公衆衛生学に関する講義及び実習担当。鶏のウイルス性呼吸器病が研究テーマ。1978年頃より当時国内での発生は皆無でほとんど未知であった鳥インフルエンザ研究も開始。ベトナムでの鳥インフルエンザ共同研究にも従事中。2006年4月から現職。



竹田 謙一 (たけだけんいち)

信州大学農学部准教授。1971年神奈川県生まれ。1995年日本獣医畜産大学畜産学科卒業、2000年、東北大学大学院農学研究科博士後期課程修了、博士（農学）の学位取得。2000年より、信州大学農学部助手、准教授を経て、2014年より現職。家畜管理、応用動物行動学、アニマルウェルフェア（家畜福祉）に関する研究が専門。これまで、(社)畜産技術協会の「アニマルウェルフェア(AW)に対応した飼養管理技術確立事業専門委員会」、「採卵鶏のAWに関する実証調査事業」の委員や(独)農林水産消費安全技術センターISO/TC34/WG16(AW作業部会)有識者グループ委員、登録エキスパートを務める。

- | | |
|-------|----------------------|
| 小平 満 | 長野県健康福祉部食品・生活衛生課 |
| 早川 佳代 | 伊那市農林部農政課 |
| 菊池 聡 | 信州大学地域防災減災センター センター長 |
| 横山 俊一 | 信州大学地域防災減災センター 研究員 |

参加について

参加無料・申込不要ですが
講演資料を確実に必要とされる場合は
事前登録をおすすめします。

登録は、右QRコード
またはセンターHPよりお願いします。



お問合せ

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
信州大学地域防災減災センター（三浦・横山）
電話：0263-37-2064 Mail：d_map@shinshu-u.ac.jp

全体スケジュール

- | | |
|---------------|--|
| 12:30 | 受付開始 |
| 13:00 - 13:05 | 開会挨拶 信州大学 学長 濱田 州博 |
| 13:05 - 13:15 | 趣旨説明および「長野県の災害と飼育動物」
信州大学地域防災減災センター研究員 横山 俊一 |
| 13:15 - 13:45 | 「災害時のペットの同行避難をリアルに考える」
成城大学法学部教授 打越 綾子 |
| 13:55 - 14:25 | 「災害時の産業動物とアニマルウェルフェア」
信州大学農学部准教授 竹田 謙一 |
| 14:30 - 15:30 | 「災害時の飼育動物と感染症」
京都産業大学鳥インフルエンザ研究センター長／鳥取大学特任教授 大槻 公一 |
| 15:40 - 16:25 | 全体討論
司会：信州大学地域防災減災センター長 菊池 聡 |
| 16:25 - 16:30 | 閉会挨拶 |

開催場所マップ



会場に駐車場はありません。

当日はえびす講花火大会も開催されます。公共交通機関または周辺の有料駐車場をご利用下さい。

会場まで災害時をイメージして歩いていただくと、講演の理解がより深まります。

会場：長野県長野市若里4-17-1 (JR長野駅東口から徒歩20分)

●長野電鉄/バス利用の場合

JR長野駅東口21番のりばで、長電バス「日赤線」に乗車(5分)、バス停「信大工学部」で下車して、進行方向と反対に直進し「北市」交差点を左折してから、徒歩2分(約200m)直進すると左側に工学部正門があります。

●アルピコバス利用の場合

JR長野駅善光寺口2番のりばで、アルピコバス「日赤線由大塚南行き」「松岡行き」「ビッグハット行き」のいずれかに乗車(8分)、バス停「信大工学部前」で下車し、進行方向に向かって徒歩3分(約300m)直進すると左側に工学部南門があります。